

退任の「あいさつ」

3月24日付けで小川国彦市長が退任されました。



前市長

小川国彦

このたび、わたしは任期途中でありますが、3月24日をもって成田市長を退任させていただきました。

成田市長に就任以来、7年10カ月にわたり、「日本一住みよいふるさと成田」の実現に向け、渾身の努力を重ねてまいりました。おかげさまで減税をはじめ、公約の諸施策を各分野で実行できましたが、空港圏合併問題の政治責任を取って辞任を決定いたしましたことは、誠に申し訳なく心からおわび申し上げます。

ここに長年にわたる皆さまのご厚情にあらためて感謝とお礼を申し上げます。

振り返ってみますと、私は昭和38年30歳で、成田市から千葉県議会議員に選ばれました。

一千年からの歴史をもつ門前町、そして合併した6カ村の旧村々の人々、そこに住む成田市民の皆さまから、新しい成田を創造すべき期待を込めた

「成田のために」というスローガンの下、当選の栄を与えていただきました。

以来、今日まで県議会議員3期12年、衆議院議員6期17年、市長2期8年と40年におよぶ政治生活において、私は成田を基盤として政治活動を続けてまいりました。この間、私は常に成田市民の信頼と期待を裏切ることのないよう、「郷土と日本のために尽くす」ということを私の政治信条の基本としてまいりました。

そして、県議会においては、印旛沼水資源の問題を皮切りに東京湾埋立ての問題、富里空港の問題から成田空港の問題にかかわってきました。

また当時、立ち遅れていた県道整備にも取り組み、成田―安食線ハイパス、成田―下総神崎線の県道新設などを実現することができました。

さらに国会議員となりましてからは、国政の各分野にわたっての改革を目指し、幅広く研究を重ね、議会では活発

に質問をし、いわゆる「駅前自転車置き場法」「リサイクル法案」などの議員立法も手掛けてきました。

こうした経験を踏まえて、平成7年4月、成田市長に選出され、成田市政を担当できましたことは、私にとってこの上ない幸いであり、充実した政治生活でありました。

政治家の 仕上げ成田で 悔いはなし

成田市政に臨んでからは、早速、成田空港問題に取り組み、用地問題や騒音対策に、国や県、新東京国際空港公団と力を合わせて、その解決に専念してまいりました。昨年4月の暫定平行滑走路のオープンには、なにより喜びでありました。

また医療や福祉の問題では、成田日赤病院の新築や、成田市保健福祉館の建設に取り組み、保健、医療、福祉の中心的な存在となる施設の完成を見ることができました。

教育の面では西中学校の新築や、各校の大規模改修を完了させることも、成田小学校から市内全小学校での英会話教育を、全国に先がけて展開実施できたことも将来、楽しみの一つです。

商工観光の面では、仲町の電線地中化をはじめとし、平成16年7月までに上町、花崎町までを完成させ、駅から門前までの約800メートルが、江戸

時代から明治にかけての「門前通り」として復元できる見通しができました。

農業面でも、農業センターを中心に大型専業農家の育成をはかり、また堆肥土づくり実践館の建設によって循環型農業推進のきっかけが作られつつあります。

こうした成田市の主要な諸事業が軌道に乗り、さらに成田新高速鉄道や北千葉道路などの新たな建設計画が加わって、国際空港都市づくりは市の内外で着実に進展しつつあります。

かつて海の港町として発展した神戸市や横浜市のように、成田市は空の港町として大きく飛躍の時を迎えつつあります。

こうした成田市の国際空港都市の将来を見つめながら、私は成田市長としてこの8年間、その土台づくりの一役を担えたことを大きな喜びとし、感謝しております。

三國志に登場する魏の曹操は、老いた名馬は馬小屋に身を横たえても「志千里にあり」という有名な詩を作りました。

わたしも、市長の立場を離れましてからも、一市民として成田市の将来をしっかりと見守ってまいりたいと存じます。

成田市民の皆さまのご健勝と成田市の発展を祈って、退任の「あいさつ」といたします。